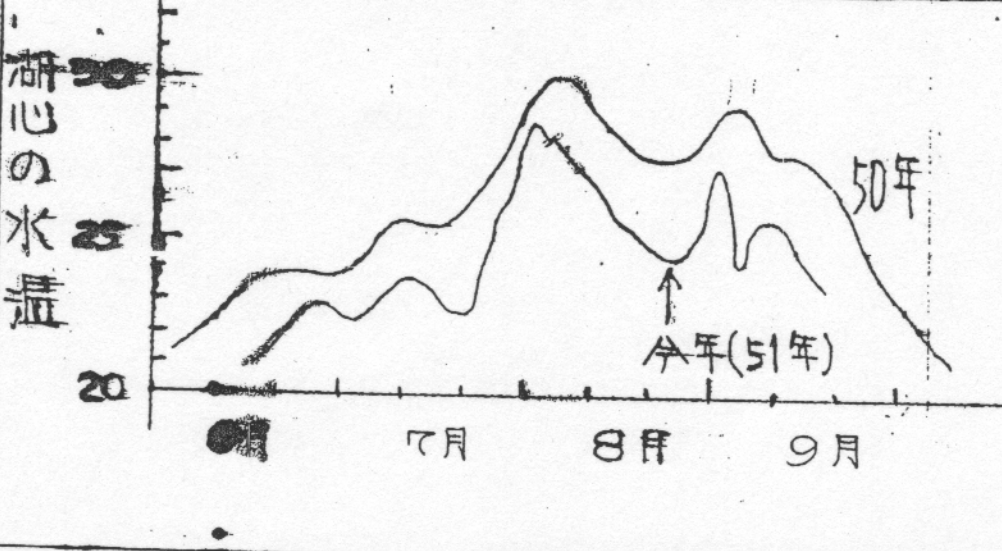


水質

昭和48年から50年までの3年間は、9月に入ると着殖ゴイのへい死がびんばんに発生して、アオコも低下しやすしい時期のようですが、今年はそのようになってはいます。水温も低いものもよく水質が数度も低くはなっています。因に昨年と今年の水質を調査しました。結果は、**明らかに見えらるる**。9月下旬には、高流入、ヤ土浦入の奥部ではアオコが吹雪いたように堆積するのですが、



今年はそのが、ひびくまにようです。9月上旬のプランクトンをくらべてみても、今年にはアオコも

昨年と今年のプランクトンの比較(不養分)

項目	50.9.10	51.9.7
アオコ	1100	525
クロコケ	600	3600

昨年と今年の窒素の比較 (単位 = マグネシウム PPM)

年・月・日	50.8.6	51.8.4
水質	1.3	0.9
水質	1.5	0.8
水質	1.3	0.6
水質	1.4	0.9

であるのに対し、今年には、同じ8月上旬の値が1ppmを割っていて、昨年に比較すると、**明らかに減少が見られます**。今年のアオコの少なかった大きな原因は、このようにアオコの栄養となる物質が少なかつたこと、

りも、ゴニホスヘリアが多いのが特徴的です。また、アオコの栄養の一つである窒素について見ると、

と考えられます。アオコは、栄養が少なかつたことにより、なんと、水温も勿論関係するでしょうが、生物相や流入量、水量など、いろいろを考えると考えられますが、まだまだ、わかりなことはかりです。48年はアオコの増殖に有利な異常気象、今年には不利な条件の年、この2年の研究がアオコ対策に手懸きをうかがえるのもおもしろい。

水温の話

化学反応の速度は10℃ある毎に2-3倍になるというわけですが、**水温が10℃低くなるだけで、反応速度が半分になります**。①魚の卵がふ化するのに要する日数は、コイでは、100日*